

#教師のバトンは、2021年3月に文部科学省が立ち上げた当時のツイッターです。

目的は、現場で日々奮闘する現職の教師、学校の働き方改革や新しい教育実践の事例、ベテラン教師から若い教師に、現職の教師から教職を目指す学生に向けてバトンをつなぐためのプロジェクトでした。しかし、そこに寄せられた多くのメッセージは、目的とはかけ離れ、教職という仕事がどんなに過酷で、仕事に忙殺されているかの現状を訴える場になってしまいました。

地域や学校規模にもよりますが、学校は義務教育の場としてはもちろん、地域の基盤となる役割も果たし、いじめや虐待の対応、多様化する保護者のニーズへの対応、貧困対策、弱体化するPTAの保護者に代わって、教職員への負担が増えています。このような大きな課題を抱えながら、遅々として進まない教職員の働き方改革です。

今回の請願は、その教職員の現場からのSOSの表明だと私は捉えています。

これまで野田市が土曜授業をスタートさせてから10年の節目となる土曜授業の見直しの結果が公表されて、署名活動が始まりこの請願につながったと聞きます。

土曜授業の回数を減らし、目的を学力向上ではなく、地域の皆さんに褒められたえてもらう機会をつくるための時間に変更する。その内容への転換で、先生方の負担軽減につながるとは思えません。出勤する日数は減っても、新たな取組をどのように捉え、具体的なカリキュラムにまで構築するには、新たな負担が増えます。

日本における教育は、大きな瀬戸際に来ていると思います。資源の少ない私たちの国は人が財産、人を育てる教育に力を入れていくべきと言われていたはずが、残念ながらそうはなっていません。千葉県における教育費についても、財政力は全国的にも見ても上位にありながら、教育費が占める割合が低いのが現状です。一週間前3月19日に県議が県教委に資料請求をして入手した令和5年度の未配置校に関する不足する講師の人数を各月に示した資料をもらいました。

令和5年始業式時点での講師未配置校が小学校で127人、中学校で34人でした。各月の数字は省略しますが、令和6年2月1日現在で小学校265人、中学校97人と未配置の講師数は増加しています。

この不足した職員を教頭先生や学年主任の先生、時には校長先生が賄わざるを得ない状況を私たちは想像しなければなりません。それに加えて、野田市では土曜授業で出勤した土曜授業の代休をほぼ100%取得しています。代休を取るとは当然のことです。しかし、教員仲間が誰かしら代休を取っている状況は、また新たな現場の先生の負担を強いているのです。

教員という仕事は未来を担う子供たちとともに学び成長していく大事な職業

です。その成り手不足を補うための冒頭の#教師のバトンだったわけです。

ここは、先生方の声に真摯に向き合うべきです。この土曜授業を一旦中止にして、廃止に向けた準備をする。そのことが、現場のSOSに応えることになり、先生方の安堵と笑顔につながれば、これは児童生徒にとっても喜ばしい改善につながるはずです。自分が身を置く周囲の人が、いつも疲れている、元気がない、話を聴いてくれているのかなと心配するよりも、一緒に笑ったり、笑顔でこちらの話に耳を傾けることができれば、それは大きな変化でしょう。また、他市との教員との交流を活発化させ、より充実した教育の在り方を構築させることができるでしょう。

確かに様々な声があり、この請願の中止に反対する声もあるでしょう。中止と廃止は違うと思います。言葉は丁寧に使いたいものです。多くの先生方のSOSに耳を傾けましょう。

どうぞ、この請願に賛成し、先生方の負担軽減につなげ、笑顔が子供たちに与える効果に期待し、この請願に賛成いたします。